

## 42 長崎県

## 国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(基礎資料)

都道府県 番号	整理 番号	市町村	国保料率等										長寿医療料率		その他	
			賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%, 円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (人)	国保特会への法 定外一般会計繰 入(千円)
					所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
42	1	長崎市	3方式	旧ただし書き	9.60%	29,600	21,900	0	51%	34%	15%	0%	7.80%	42,400	178,147	8799
42	2	佐世保市	3方式	旧ただし書き	10.20%	26,800	26,000	0	47%	34%	19%	0%	7.80%	42,400	75,639	0
42	3	島原市	3方式	旧ただし書き	10.70%	26,700	26,400	0	49%	35%	16%	0%	7.80%	42,400	14,915	0
42	4	諫早市	3方式	旧ただし書き	10.40%	30,700	27,300	0	53%	32%	15%	0%	7.80%	42,400	51,787	0
42	5	大村市	3方式	旧ただし書き	9.40%	29,700	29,800	0	46%	35%	19%	0%	7.80%	42,400	29,320	0
42	6	平戸市	4方式	旧ただし書き	11.50%	24,600	22,900	4,338	47%	35%	16%	2%	7.80%	42,400	18,575	0
42	7	松浦市	3方式	旧ただし書き	11.70%	29,800	26,500	0	48%	36%	16%	0%	7.80%	42,400	12,454	0
42	8	対馬市	4方式	旧ただし書き	10.30%	31,500	32,000	18,973	44%	6%	35%	15%	7.80%	42,400	18,705	0
42	9	壱岐市	4方式	旧ただし書き	8.40%	23,000	32,000	11,950	42%	31%	20%	7%	7.80%	42,400	14,859	0
42	10	五島市	3方式	旧ただし書き	9.60%	21,900	18,700	0	48%	35%	17%	0%	6.90%	37,300	21,290	0
42	11	西海市	4方式	旧ただし書き	9.40%	24,000	28,000	22,840	44%	31%	17%	8%	7.80%	42,400	13,851	0
42	12	雲仙市	4方式	旧ただし書き	9.00%	29,000	31,000	18,973	42%	35%	15%	8%	7.80%	42,400	26,053	0
42	13	南島原市	4方式	旧ただし書き	8.40%	24,000	31,000	21,895	41%	11%	31%	17%	7.80%	42,400	28,043	0
42	14	長与町	4方式	旧ただし書き	5.80%	24,000	26,000	6,148	42%	33%	19%	6%	7.80%	42,400	10,042	0
42	15	時津町	4方式	旧ただし書き	7.30%	25,000	23,000	2,672	46%	35%	17%	2%	7.80%	42,400	7,840	0
42	16	東彼杵町	4方式	旧ただし書き	7.00%	22,000	30,000	18,738	35%	32%	20%	13%	7.80%	42,400	3,457	0
42	17	川棚町	4方式	旧ただし書き	6.20%	26,000	26,500	12,434	37%	35%	20%	8%	7.80%	42,400	4,323	0
42	18	波佐見町	4方式	旧ただし書き	7.60%	24,000	34,000	18,973	45%	30%	15%	10%	7.80%	42,400	4,927	0
42	19	小値賀町	3方式	旧ただし書き	8.80%	19,000	21,000	0	51%	32%	17%	0%	6.50%	35,000	1,957	0
42	20	江迎町	4方式	旧ただし書き	8.00%	21,500	25,000	11,602	42%	31%	19%	8%	7.80%	42,400	2,176	0
42	21	鹿町町	4方式	旧ただし書き	8.00%	20,000	20,000	5,550	47%	33%	18%	2%	7.80%	42,400	2,082	0
42	22	佐々町	4方式	旧ただし書き	7.50%	28,000	29,000	18,973	43%	31%	16%	10%	7.80%	42,400	4,871	0
42	23	新上五島町	4方式	旧ただし書き	6.50%	18,000	25,000	13,059	36%	30%	23%	11%	6.90%	37,400	10,290	0

(様式3)

## 国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(75歳以上単身世帯)

(単位:円)

都道府県 番号	整理 番号	市町村	単身世帯(75歳以上)					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料
42	1	長崎市	15,500	12,700	87,300	71,400	271,800	221,400
42	2	佐世保市	15,800	12,700	91,200	71,400	286,900	221,400
42	3	島原市	15,900	12,700	93,800	71,400	298,700	221,400
42	4	諫早市	17,400	12,700	96,300	71,400	296,700	221,400
42	5	大村市	17,900	12,700	92,700	71,400	275,200	221,400
42	6	平戸市	18,600	12,700	97,500	71,400	315,800	221,400
42	7	松浦市	16,900	12,700	101,200	71,400	324,800	221,400
42	8	対馬市	38,000	12,700	119,200	71,400	318,900	221,400
42	9	壱岐市	28,500	12,700	96,300	71,400	259,700	221,400
42	10	五島市	12,200	11,200	78,600	63,000	260,900	195,700
42	11	西海市	38,400	12,700	109,600	71,400	290,600	221,400
42	12	雲仙市	37,000	12,700	110,200	71,400	285,500	221,400
42	13	南島原市	38,400	12,700	106,200	71,400	269,700	221,400
42	14	長与町	21,100	12,700	74,000	71,400	189,300	221,400
42	15	時津町	17,100	12,700	76,100	71,400	218,200	221,400
42	16	東彼杵町	34,300	12,700	93,900	71,400	231,400	221,400
42	17	川棚町	28,200	12,700	84,200	71,400	207,200	221,400
42	18	波佐見町	36,400	12,700	101,900	71,400	251,400	221,400
42	19	小値賀町	12,000	10,500	74,200	59,200	242,000	184,200
42	20	江迎町	25,600	12,700	87,200	71,400	241,700	221,400
42	21	鹿町町	17,600	12,700	76,000	71,400	229,200	221,400
42	22	佐々町	36,100	12,700	100,600	71,400	248,100	221,400
42	23	新上五島町	26,000	11,200	78,700	63,000	205,200	195,800

(様式4)

## 国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(夫婦世帯:ともに75歳以上)

(単位:円)

都道府県 番号	整理 番号	市町村	夫婦世帯(ともに75歳以上)					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料
42	1	長崎市	24,300	25,400	111,000	105,300	301,400	263,800
42	2	佐世保市	23,900	25,400	112,600	105,300	313,700	263,800
42	3	島原市	23,900	25,400	115,200	105,300	325,400	263,800
42	4	諫早市	26,600	25,400	120,900	105,300	327,400	263,800
42	5	大村市	26,800	25,400	116,500	105,300	304,900	263,800
42	6	平戸市	26,000	25,400	117,200	105,300	340,400	263,800
42	7	松浦市	25,800	25,400	125,000	105,300	354,600	263,800
42	8	対馬市	47,500	25,400	144,400	105,300	350,400	263,800
42	9	壱岐市	35,400	25,400	114,700	105,300	282,700	263,800
42	10	五島市	18,800	22,400	96,100	92,800	282,800	233,000
42	11	西海市	45,600	25,400	128,800	105,300	314,600	263,800
42	12	雲仙市	45,700	25,400	133,400	105,300	314,500	263,800
42	13	南島原市	45,600	25,400	125,400	105,300	293,700	263,800
42	14	長与町	28,300	25,400	93,200	105,300	213,300	263,800
42	15	時津町	24,600	25,400	96,100	105,300	243,200	263,800
42	16	東彼杵町	40,900	25,400	111,500	105,300	253,400	263,800
42	17	川棚町	36,000	25,400	105,000	105,300	233,200	263,800
42	18	波佐見町	43,600	25,400	121,100	105,300	275,400	263,800
42	19	小値賀町	17,700	21,000	89,400	87,200	261,000	219,200
42	20	江迎町	32,000	25,400	104,400	105,300	263,200	263,800
42	21	鹿町町	23,600	25,400	92,000	105,300	249,200	263,800
42	22	佐々町	44,500	25,400	123,000	105,300	276,100	263,800
42	23	新上五島町	31,400	22,400	93,100	92,900	223,200	233,200



(様式5)

## 国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(夫婦世帯:夫75歳以上、妻75歳未満)

(単位:円)

都道府県 番号	整理 番号	市町村	夫婦世帯(夫75歳以上、妻75歳未満)					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿+国保	国保保険料	長寿+国保	国保保険料	長寿+国保
42	1	長崎市	24,300	24,900	111,000	103,800	301,400	262,000
42	2	佐世保市	23,900	24,600	112,600	103,200	313,700	261,200
42	3	島原市	23,900	24,700	115,200	103,300	325,400	261,300
42	4	諫早市	26,600	26,000	120,900	106,900	327,400	265,800
42	5	大村市	26,800	26,100	116,500	107,100	304,900	266,000
42	6	平戸市	26,000	23,500	117,200	100,200	340,400	257,500
42	7	松浦市	25,800	25,600	125,000	105,800	354,600	264,500
42	8	対馬市	47,500	27,000	144,400	109,400	350,400	268,900
42	9	壱岐市	35,400	24,400	114,700	102,600	282,700	260,400
42	10	五島市	18,800	20,600	96,100	88,000	282,800	227,000
42	11	西海市	45,600	24,100	128,800	101,800	314,600	259,400
42	12	雲仙市	45,700	26,100	133,400	107,000	314,500	265,900
42	13	南島原市	45,600	24,600	125,400	103,000	293,700	260,900
42	14	長与町	28,300	23,800	93,200	101,000	213,300	258,400
42	15	時津町	24,600	23,700	96,100	100,600	243,200	257,900
42	16	東彼杵町	40,900	23,800	111,500	101,000	253,400	258,400
42	17	川棚町	36,000	24,500	105,000	102,800	233,200	260,700
42	18	波佐見町	43,600	25,000	121,100	104,200	275,400	262,400
42	19	小値賀町	17,700	19,400	89,400	82,800	261,000	213,700
42	20	江迎町	32,000	22,900	104,400	98,600	263,200	255,400
42	21	鹿町町	23,600	21,700	92,000	95,400	249,200	251,400
42	22	佐々町	44,500	25,500	123,000	105,400	276,100	263,900
42	23	新上五島町	31,400	20,400	93,100	87,400	223,200	226,300

(様式6)

## 国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(同居世帯(75歳以上高齢者＋子供夫婦))

(単位:円)

都道府県 番号	整理 番号	市町村	同居世帯					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿＋国保	国保保険料	長寿＋国保	国保保険料	長寿＋国保
42	1	長崎市	251,800	264,600	297,900	302,000	472,100	443,600
42	2	佐世保市	256,300	271,900	305,300	309,300	490,400	450,900
42	3	島原市	263,800	279,500	315,200	316,900	509,400	458,500
42	4	諫早市	272,300	284,000	322,200	321,400	511,000	463,000
42	5	大村市	257,100	269,800	302,200	307,200	472,800	448,800
42	6	平戸市	270,100	283,600	325,300	321,000	534,000	462,600
42	7	松浦市	287,900	300,500	344,100	337,900	556,400	479,500
42	8	対馬市	296,900	288,800	346,300	326,200	533,300	467,800
42	9	壱岐市	236,400	243,900	276,800	281,300	429,200	422,900
42	10	五島市	225,500	240,900	271,600	274,000	445,800	399,300
42	11	西海市	261,000	256,600	306,100	294,000	476,800	435,600
42	12	雲仙市	269,300	263,700	312,500	301,100	475,800	442,700
42	13	南島原市	248,400	244,900	288,700	282,300	441,200	423,900
42	14	長与町	189,400	201,700	217,200	239,100	322,500	380,700
42	15	時津町	208,000	222,700	243,000	260,100	375,500	401,700
42	16	東彼杵町	217,600	219,300	251,200	256,700	378,300	398,300
42	17	川棚町	208,100	212,000	237,800	249,400	350,400	391,000
42	18	波佐見町	236,700	236,100	273,200	273,500	411,100	415,100
42	19	小値賀町	207,400	223,400	249,600	254,600	409,300	372,600
42	20	江迎町	218,700	228,000	257,100	265,400	402,300	407,000
42	21	鹿町町	203,200	220,000	241,600	257,400	386,800	399,000
42	22	佐々町	242,200	237,700	278,200	275,100	414,300	416,700
42	23	新上五島町	187,600	194,000	218,800	227,100	336,800	352,400

長崎市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
1	3方式	旧ただし書き	9.60%	29,600	21,900	0	51%	34%	15%	0%	7.80%	42,400	178,147	8,799

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	15,500		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	87,300		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	271,800		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	24,300	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	111,000	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	301,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	24,300	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	24,900
					妻の国保保険料	7割	－	12,200	
	夫:年金201万	2割	－	111,000	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	103,800
					妻の国保保険料	2割	－	32,400	
	夫:年金400万	－	－	301,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	262,000
					妻の国保保険料	－	－	40,600	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	251,800	長寿保険料	－	－	42,400	264,600
					国保保険料	－	－	222,200	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	297,900	長寿保険料	－	－	79,800	302,000
					国保保険料	－	－	222,200	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	472,100	長寿保険料	－	－	221,400	443,600
					国保保険料	－	－	222,200	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

## 佐世保市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
2	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
	3方式	旧ただし書き	10.20%	26,800	26,000	0	47%	34%	19%	0%	7.80%	42,400	75,639	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	15,800		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	91,200		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	286,900		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	23,900	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	112,600	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	313,700	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	23,900	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	24,600
					妻の国保保険料	7割	－	11,900	
	夫:年金201万	2割	－	112,600	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	103,200
					妻の国保保険料	2割	－	31,800	
	夫:年金400万	－	－	313,700	夫の長寿保険料	－	－	221,400	261,200
					妻の国保保険料	－	－	39,800	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	256,300	長寿保険料	－	－	42,400	271,900
					国保保険料	－	－	229,500	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	305,300	長寿保険料	－	－	79,800	309,300
					国保保険料	－	－	229,500	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	490,400	長寿保険料	－	－	221,400	450,900
					国保保険料	－	－	229,500	

備考	
----	--

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)+配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。



島原市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
3	3方式	旧ただし書き	10.70%	26,700	26,400	0	49%	35%	16%	0%	7.80%	42,400	14,915	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	15,900	7割	－	12,700		
	年金201万	2割	－	93,800	2割	－	71,400		
	年金400万	－	－	298,700	－	－	221,400		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	23,900	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,700 12,700	25,400	
	夫:年金201万	2割	－	115,200	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	71,400 33,900	105,300	
	夫:年金400万	－	－	325,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	－ －	221,400 42,400	263,800	
	夫:年金79万	7割	－	23,900	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,700 12,000	24,700	
	夫:年金201万	2割	－	115,200	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	71,400 31,900	103,300	
	夫:年金400万	－	－	325,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	－ －	221,400 39,900	261,300	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	263,800	長寿保険料 国保保険料	－ －	42,400 237,100	279,500	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	315,200	長寿保険料 国保保険料	－ －	79,800 237,100	316,900	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	509,400	長寿保険料 国保保険料	－ －	221,400 237,100	458,500	
	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	263,800	長寿保険料 国保保険料	－ －	42,400 237,100	279,500	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	315,200	長寿保険料 国保保険料	－ －	79,800 237,100	316,900	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	509,400	長寿保険料 国保保険料	－ －	221,400 237,100	458,500	

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「－」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「－」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
4	3方式	旧ただし書き	10.40%	30,700	27,300	0	53%	32%	15%	0%	7.80%	42,400	51,787	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	17,400		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	96,300		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	296,700		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	26,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	120,900	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	327,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	26,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	26,000
					妻の国保保険料	7割	－	13,300	
	夫:年金201万	2割	－	120,900	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	106,900
					妻の国保保険料	2割	－	35,500	
	夫:年金400万	－	－	327,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	265,800
					妻の国保保険料	－	－	44,400	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	272,300	長寿保険料	－	－	42,400	284,000
					国保保険料	－	－	241,600	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	322,200	長寿保険料	－	－	79,800	321,400
					国保保険料	－	－	241,600	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	511,000	長寿保険料	－	－	221,400	463,000
					国保保険料	－	－	241,600	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「－」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「－」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

## 大村市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
5	3方式	旧ただし書き	9.40%	29,700	29,800	0	46%	35%	19%	0%	7.80%	42,400	29,320	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	17,900		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	92,700		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	275,200		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	26,800	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	116,500	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	304,900	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	26,800	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	26,100
					妻の国保保険料	7割	－	13,400	
	夫:年金201万	2割	－	116,500	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	107,100
					妻の国保保険料	2割	－	35,700	
	夫:年金400万	－	－	304,900	夫の長寿保険料	－	－	221,400	266,000
					妻の国保保険料	－	－	44,600	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	257,100	長寿保険料	－	－	42,400	269,800
					国保保険料	－	－	227,400	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	302,200	長寿保険料	－	－	79,800	307,200
					国保保険料	－	－	227,400	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	472,800	長寿保険料	－	－	221,400	448,800
					国保保険料	－	－	227,400	

備考	
----	--

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。



平戸市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
6	4方式	旧ただし書き	11.50%	24,600	22,900	4,338	47%	35%	16%	2%	7.80%	42,400	18,575	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	18,600		7割	—	12,700	
	年金201万	2割	—	97,500		2割	—	71,400	
	年金400万	—	—	315,800		—	—	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	26,000	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	—	12,700	
	夫:年金201万	2割	—	117,200	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	—	33,900	
	夫:年金400万	—	—	340,400	夫の長寿保険料	—	—	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	—	—	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	26,000	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	23,500
					妻の国保保険料	7割	—	10,800	
	夫:年金201万	2割	—	117,200	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	100,200
					妻の国保保険料	2割	—	28,800	
	夫:年金400万	—	—	340,400	夫の長寿保険料	—	—	221,400	257,500
					妻の国保保険料	—	—	36,100	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	270,100	長寿保険料	—	—	42,400	283,600
					国保保険料	—	—	241,200	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	325,300	長寿保険料	—	—	79,800	321,000
					国保保険料	—	—	241,200	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	534,000	長寿保険料	—	—	221,400	462,600
					国保保険料	—	—	241,200	

備考
----

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

松浦市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
7	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
	3方式	旧ただし書き	11.70%	29,800	26,500	0	48%	36%	16%	0%	7.80%	42,400	12,454	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	16,900	7割	－	12,700		
	年金201万	2割	－	101,200	2割	－	71,400		
	年金400万	－	－	324,800	－	－	221,400		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	25,800	夫の長寿保険料	7割	12,700	25,400	
					妻の長寿保険料	7割	12,700		
	夫:年金201万	2割	－	125,000	夫の長寿保険料	2割	71,400	105,300	
					妻の長寿保険料	2割	33,900		
	夫:年金400万	－	－	354,600	夫の長寿保険料	－	221,400	263,800	
					妻の長寿保険料	－	42,400		
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	25,800	夫の長寿保険料	7割	12,700	25,600	
					妻の国保保険料	7割	12,900		
	夫:年金201万	2割	－	125,000	夫の長寿保険料	2割	71,400	105,800	
					妻の国保保険料	2割	34,400		
	夫:年金400万	－	－	354,600	夫の長寿保険料	－	221,400	264,500	
					妻の国保保険料	－	43,100		
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	－	－	287,900	長寿保険料	－	42,400	300,500	
					国保保険料	－	258,100		
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	－	－	344,100	長寿保険料	－	79,800	337,900	
					国保保険料	－	258,100		
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	556,400	長寿保険料	－	221,400	479,500	
					国保保険料	－	258,100		

備考
----

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「－」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「－」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

対馬市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
8	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
	4方式	旧ただし書き	10.30%	31,500	32,000	18,973	44%	6%	35%	15%	7.80%	42,400	18,705	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	38,000		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	119,200		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	318,900		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	47,500	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	144,400	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	350,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	47,500	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	27,000
					妻の国保保険料	7割	－	14,300	
	夫:年金201万	2割	－	144,400	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	109,400
					妻の国保保険料	2割	－	38,000	
	夫:年金400万	－	－	350,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	268,900
					妻の国保保険料	－	－	47,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	296,900	長寿保険料	－	－	42,400	288,800
					国保保険料	－	－	246,400	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	346,300	長寿保険料	－	－	79,800	326,200
					国保保険料	－	－	246,400	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	533,300	長寿保険料	－	－	221,400	467,800
					国保保険料	－	－	246,400	

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

壱岐市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
9	4方式	旧ただし書き	8.40%	23,000	32,000	11,950	42%	31%	20%	7%	7.80%	42,400	14,859	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	28,500	7割	－	12,700		
	年金201万	2割	－	96,300	2割	－	71,400		
	年金400万	－	－	259,700	－	－	221,400		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	35,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,700 12,700	25,400	
	夫:年金201万	2割	－	114,700	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	71,400 33,900	105,300	
	夫:年金400万	－	－	282,700	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	－ －	221,400 42,400	263,800	
	夫:年金79万	7割	－	35,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,700 11,700	24,400	
	夫:年金201万	2割	－	114,700	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	71,400 31,200	102,600	
	夫:年金400万	－	－	282,700	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	－ －	221,400 39,000	260,400	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	236,400	長寿保険料 国保保険料	－ －	42,400 201,500	243,900	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	276,800	長寿保険料 国保保険料	－ －	79,800 201,500	281,300	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	429,200	長寿保険料 国保保険料	－ －	221,400 201,500	422,900	
	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	236,400	長寿保険料 国保保険料	－ －	42,400 201,500	243,900	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	276,800	長寿保険料 国保保険料	－ －	79,800 201,500	281,300	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	429,200	長寿保険料 国保保険料	－ －	221,400 201,500	422,900	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「－」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「－」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

## 五島市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%, 円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
10	3方式	旧ただし書き	9.60%	21,900	18,700	0	48%	35%	17%	0%	6.90%	37,300	21,290	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	12,200		7割	—	11,200	
	年金201万	2割	—	78,600		2割	—	63,000	
	年金400万	—	—	260,900		—	—	195,700	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	18,800	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	— —	11,200 11,200	22,400
	夫:年金201万	2割	—	96,100	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	— —	63,000 29,800	92,800
	夫:年金400万	—	—	282,800	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	— —	195,700 37,300	233,000
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	18,800	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	— —	11,200 9,400	20,600
	夫:年金201万	2割	—	96,100	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	— —	63,000 25,000	88,000
	夫:年金400万	—	—	282,800	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	— —	195,700 31,300	227,000
同居世帯 (計3人:高齢者1人 (75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	225,500	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	37,300 203,600	240,900
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	271,600	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	70,400 203,600	274,000
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	445,800	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	195,700 203,600	399,300

備考
----

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村住民税所得割額」、「市町村住民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化したとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化したとして計算すること。



西海市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)									長寿医療料率(20年度)		その他		
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
11	4方式	旧ただし書き	9.40%	24,000	28,000	22,840	44%	31%	17%	8%	7.80%	42,400	13,851	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	38,400		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	109,600		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	290,600		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	45,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	128,800	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	314,600	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	45,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	24,100
					妻の国保保険料	7割	－	11,400	
	夫:年金201万	2割	－	128,800	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	101,800
					妻の国保保険料	2割	－	30,400	
	夫:年金400万	－	－	314,600	夫の長寿保険料	－	－	221,400	259,400
					妻の国保保険料	－	－	38,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	261,000	長寿保険料	－	－	42,400	256,600
					国保保険料	－	－	214,200	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	306,100	長寿保険料	－	－	79,800	294,000
					国保保険料	－	－	214,200	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	476,800	長寿保険料	－	－	221,400	435,600
					国保保険料	－	－	214,200	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)+配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

雲仙市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特金への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
12	4方式	旧ただし書き	9.00%	29,000	31,000	18,973	42%	35%	15%	8%	7.80%	42,400	26,053	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	37,000		7割	—	12,700	
	年金201万	2割	—	110,200		2割	—	71,400	
	年金400万	—	—	285,500		—	—	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	45,700	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	—	12,700	
	夫:年金201万	2割	—	133,400	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	—	33,900	
	夫:年金400万	—	—	314,500	夫の長寿保険料	—	—	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	—	—	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	45,700	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	26,100
					妻の国保保険料	7割	—	13,400	
	夫:年金201万	2割	—	133,400	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	107,000
					妻の国保保険料	2割	—	35,600	
	夫:年金400万	—	—	314,500	夫の長寿保険料	—	—	221,400	265,900
					妻の国保保険料	—	—	44,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	269,300	長寿保険料	—	—	42,400	263,700
					国保保険料	—	—	221,300	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	312,500	長寿保険料	—	—	79,800	301,100
					国保保険料	—	—	221,300	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	475,800	長寿保険料	—	—	221,400	442,700
					国保保険料	—	—	221,300	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特金への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化したとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化したとして計算すること。



南島原市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特金への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
13	4方式	旧ただし書き	8.40%	24,000	31,000	21,895	41%	11%	31%	17%	7.80%	42,400	28,043	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	38,400		7割	—	12,700	
	年金201万	2割	—	106,200		2割	—	71,400	
	年金400万	—	—	269,700		—	—	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	45,600	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	—	12,700	
	夫:年金201万	2割	—	125,400	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	—	33,900	
	夫:年金400万	—	—	293,700	夫の長寿保険料	—	—	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	—	—	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	45,600	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	24,600
					妻の国保保険料	7割	—	11,900	
	夫:年金201万	2割	—	125,400	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	103,000
					妻の国保保険料	2割	—	31,600	
	夫:年金400万	—	—	293,700	夫の長寿保険料	—	—	221,400	260,900
					妻の国保保険料	—	—	39,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	248,400	長寿保険料	—	—	42,400	244,900
					国保保険料	—	—	202,500	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	288,700	長寿保険料	—	—	79,800	282,300
					国保保険料	—	—	202,500	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	441,200	長寿保険料	—	—	221,400	423,900
					国保保険料	—	—	202,500	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特金への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

長与町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割合(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割合	均等割額	平等割額	資産割額	所得割合	均等割合	平等割合	資産割合				
14	4方式	旧ただし書き	5.80%	24,000	26,000	6,148	42%	33%	19%	6%	7.80%	42,400	10,042	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	21,100		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	74,000		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	189,300		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	28,300	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	93,200	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	213,300	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	28,300	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	23,800
					妻の国保保険料	7割	－	11,100	
	夫:年金201万	2割	－	93,200	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	101,000
					妻の国保保険料	2割	－	29,600	
	夫:年金400万	－	－	213,300	夫の長寿保険料	－	－	221,400	258,400
					妻の国保保険料	－	－	37,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	189,400	長寿保険料	－	－	42,400	201,700
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	217,200	国保保険料	－	－	159,300	239,100
					長寿保険料	－	－	79,800	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	322,500	国保保険料	－	－	159,300	380,700
					長寿保険料	－	－	221,400	
						国保保険料	－	－	159,300

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割合」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割課課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「－」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「－」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

時津町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
15	4方式	旧ただし書き	7.30%	25,000	23,000	2,672	46%	35%	17%	2%	7.80%	42,400	7,840	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	17,100		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	76,100		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	218,200		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	24,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	96,100	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	243,200	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	24,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	23,700
					妻の国保保険料	7割	－	11,000	
	夫:年金201万	2割	－	96,100	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	100,600
					妻の国保保険料	2割	－	29,200	
	夫:年金400万	－	－	243,200	夫の長寿保険料	－	－	221,400	257,900
					妻の国保保険料	－	－	36,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	208,000	長寿保険料	－	－	42,400	222,700
					国保保険料	－	－	180,300	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	243,000	長寿保険料	－	－	79,800	260,100
					国保保険料	－	－	180,300	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	375,500	長寿保険料	－	－	221,400	401,700
					国保保険料	－	－	180,300	

備考
----

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

東彼杵町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
16	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
	4方式	旧ただし書き	7.00%	22,000	30,000	18,738	35%	32%	20%	13%	7.80%	42,400	3,457	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	34,300		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	93,900		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	231,400		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	40,900	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	111,500	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	253,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	40,900	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	23,800
					妻の国保保険料	7割	－	11,100	
	夫:年金201万	2割	－	111,500	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	101,000
					妻の国保保険料	2割	－	29,600	
	夫:年金400万	－	－	253,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	258,400
					妻の国保保険料	－	－	37,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	217,600	長寿保険料	－	－	42,400	219,300
					国保保険料	－	－	176,900	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	251,200	長寿保険料	－	－	79,800	256,700
					国保保険料	－	－	176,900	
高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	378,300	長寿保険料	－	－	221,400	398,300	
				国保保険料	－	－	176,900		

備考
----

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しとして計算すること。

川棚町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
17	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
	4方式	旧ただし書き	6.20%	26,000	26,500	12,434	37%	35%	20%	8%	7.80%	42,400	4,323	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	28,200		7割	—	12,700	
	年金201万	2割	—	84,200		2割	—	71,400	
	年金400万	—	—	207,200		—	—	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	36,000	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	—	12,700	
	夫:年金201万	2割	—	105,000	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	—	33,900	
夫:年金400万	—	—	233,200	夫の長寿保険料	—	—	221,400	263,800	
				妻の長寿保険料	—	—	42,400		
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	36,000	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	24,500
					妻の国保保険料	7割	—	11,800	
	夫:年金201万	2割	—	105,000	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	102,800
					妻の国保保険料	2割	—	31,400	
夫:年金400万	—	—	233,200	夫の長寿保険料	—	—	221,400	260,700	
				妻の国保保険料	—	—	39,300		
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	208,100	長寿保険料	—	—	42,400	212,000
					国保保険料	—	—	169,600	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	237,800	長寿保険料	—	—	79,800	249,400
				国保保険料	—	—	169,600		
高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	350,400	長寿保険料	—	—	221,400	391,000	
				国保保険料	—	—	169,600		

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。



波佐見町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
18	4方式	旧ただし書き	7.60%	24,000	34,000	18,973	45%	30%	15%	10%	7.80%	42,400	4,927	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	36,400		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	101,900		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	251,400		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	43,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	121,100	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	275,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	43,600	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,000
					妻の国保保険料	7割	－	12,300	
	夫:年金201万	2割	－	121,100	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	104,200
					妻の国保保険料	2割	－	32,800	
	夫:年金400万	－	－	275,400	夫の長寿保険料	－	－	221,400	262,400
					妻の国保保険料	－	－	41,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	236,700	長寿保険料	－	－	42,400	236,100
					国保保険料	－	－	193,700	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	273,200	長寿保険料	－	－	79,800	273,500
					国保保険料	－	－	193,700	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	411,100	長寿保険料	－	－	221,400	415,100
					国保保険料	－	－	193,700	

備考
----

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化したとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化したとして計算すること。

## 小値賀町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
19	3方式	旧ただし書き	8.80%	19,000	21,000	0	51%	32%	17%	0%	6.50%	35,000	1,957	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	12,000		7割	－	10,500	
	年金201万	2割	－	74,200		2割	－	59,200	
	年金400万	－	－	242,000		－	－	184,200	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	17,700	夫の長寿保険料	7割	－	10,500	21,000
					妻の長寿保険料	7割	－	10,500	
	夫:年金201万	2割	－	89,400	夫の長寿保険料	2割	－	59,200	87,200
					妻の長寿保険料	2割	－	28,000	
	夫:年金400万	－	－	261,000	夫の長寿保険料	－	－	184,200	219,200
					妻の長寿保険料	－	－	35,000	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	17,700	夫の長寿保険料	7割	－	10,500	19,400
					妻の国保保険料	7割	－	8,900	
	夫:年金201万	2割	－	89,400	夫の長寿保険料	2割	－	59,200	82,800
					妻の国保保険料	2割	－	23,600	
	夫:年金400万	－	－	261,000	夫の長寿保険料	－	－	184,200	213,700
					妻の国保保険料	－	－	29,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	207,400	長寿保険料	－	－	35,000	223,400
					国保保険料	－	－	188,400	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	249,600	長寿保険料	－	－	66,200	254,600
					国保保険料	－	－	188,400	
高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	－	－	409,300	長寿保険料	－	－	184,200	372,600	
				国保保険料	－	－	188,400		

備考

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。



## 江迎町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
20	4方式	旧ただし書き	8.00%	21,500	25,000	11,602	42%	31%	19%	8%	7.80%	42,400	2,176	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	25,600		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	87,200		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	241,700		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	32,000	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	104,400	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	263,200	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	32,000	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	22,900
					妻の国保保険料	7割	－	10,200	
	夫:年金201万	2割	－	104,400	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	98,600
					妻の国保保険料	2割	－	27,200	
	夫:年金400万	－	－	263,200	夫の長寿保険料	－	－	221,400	255,400
					妻の国保保険料	－	－	34,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	218,700	長寿保険料	－	－	42,400	228,000
					国保保険料	－	－	185,600	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	257,100	長寿保険料	－	－	79,800	265,400
					国保保険料	－	－	185,600	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	402,300	長寿保険料	－	－	221,400	407,000
					国保保険料	－	－	185,600	

備考

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

鹿町町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
21	4方式	旧ただし書き	8.00%	20,000	20,000	4,251	47%	33%	18%	2%	7.80%	42,400	2,082	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	－	16,300		7割	－	12,700	
	年金201万	2割	－	74,700		2割	－	71,400	
	年金400万	－	－	227,900		－	－	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	－	22,300	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	25,400
				16,300	妻の長寿保険料	7割	－	12,700	
	夫:年金201万	2割	－	90,700	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	105,300
				74,700	妻の長寿保険料	2割	－	33,900	
	夫:年金400万	－	－	247,900	夫の長寿保険料	－	－	221,400	263,800
				227,900	妻の長寿保険料	－	－	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	－	22,300	夫の長寿保険料	7割	－	12,700	21,700
				16,300	妻の国保保険料	7割	－	9,000	
	夫:年金201万	2割	－	90,700	夫の長寿保険料	2割	－	71,400	95,400
					妻の国保保険料	2割	－	24,000	
	夫:年金400万	－	－	247,900	夫の長寿保険料	－	－	221,400	251,400
					妻の国保保険料	－	－	30,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	201,900	長寿保険料	－	－	42,400	220,000
					国保保険料	－	－	177,600	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	－	－	240,300	長寿保険料	－	－	79,800	257,400
				16,300	国保保険料	－	－	177,600	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	－	－	385,500	長寿保険料	－	－	221,400	399,000
					国保保険料	－	－	177,600	

備考
----

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特金への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
22	4方式	旧ただし書き	7.50%	28,000	29,000	18,973	43%	31%	16%	10%	7.80%	42,400	4,871	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				合計額(円)
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	36,100		7割	—	12,700	
	年金201万	2割	—	100,600		2割	—	71,400	
	年金400万	—	—	248,100		—	—	221,400	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	44,500	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	25,400
					妻の長寿保険料	7割	—	12,700	
	夫:年金201万	2割	—	123,000	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	105,300
					妻の長寿保険料	2割	—	33,900	
	夫:年金400万	—	—	276,100	夫の長寿保険料	—	—	221,400	263,800
					妻の長寿保険料	—	—	42,400	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	44,500	夫の長寿保険料	7割	—	12,700	25,500
					妻の国保保険料	7割	—	12,800	
	夫:年金201万	2割	—	123,000	夫の長寿保険料	2割	—	71,400	105,400
					妻の国保保険料	2割	—	34,000	
	夫:年金400万	—	—	276,100	夫の長寿保険料	—	—	221,400	263,900
					妻の国保保険料	—	—	42,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	242,200	長寿保険料	—	—	42,400	237,700
					国保保険料	—	—	195,300	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	278,200	長寿保険料	—	—	79,800	275,100
					国保保険料	—	—	195,300	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	—	—	414,300	長寿保険料	—	—	221,400	416,700
					国保保険料	—	—	195,300	

備考	
----	--

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特金への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
23	4方式	旧ただし書き	6.50%	18,000	25,000	13,059	36%	30%	23%	11%	6.90%	37,400	10,290	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	26,000	7割	—	11,200		
	年金201万	2割	—	78,700	2割	—	63,000		
	年金400万	—	—	205,200	—	—	195,800		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	31,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	11,200 11,200	22,400	
	夫:年金201万	2割	—	93,100	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	63,000 29,900	92,900	
	夫:年金400万	—	—	223,200	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	195,800 37,400	233,200	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	31,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	11,200 9,200	20,400	
	夫:年金201万	2割	—	93,100	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	63,000 24,400	87,400	
	夫:年金400万	—	—	223,200	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	195,800 30,500	226,300	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	187,600	長寿保険料 国保保険料	— —	37,400 156,600	194,000	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	218,800	長寿保険料 国保保険料	— —	70,500 156,600	227,100	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	336,800	長寿保険料 国保保険料	— —	195,800 156,600	352,400	

備考	
----	--

## (記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書き」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)+配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけと計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけと計算すること。